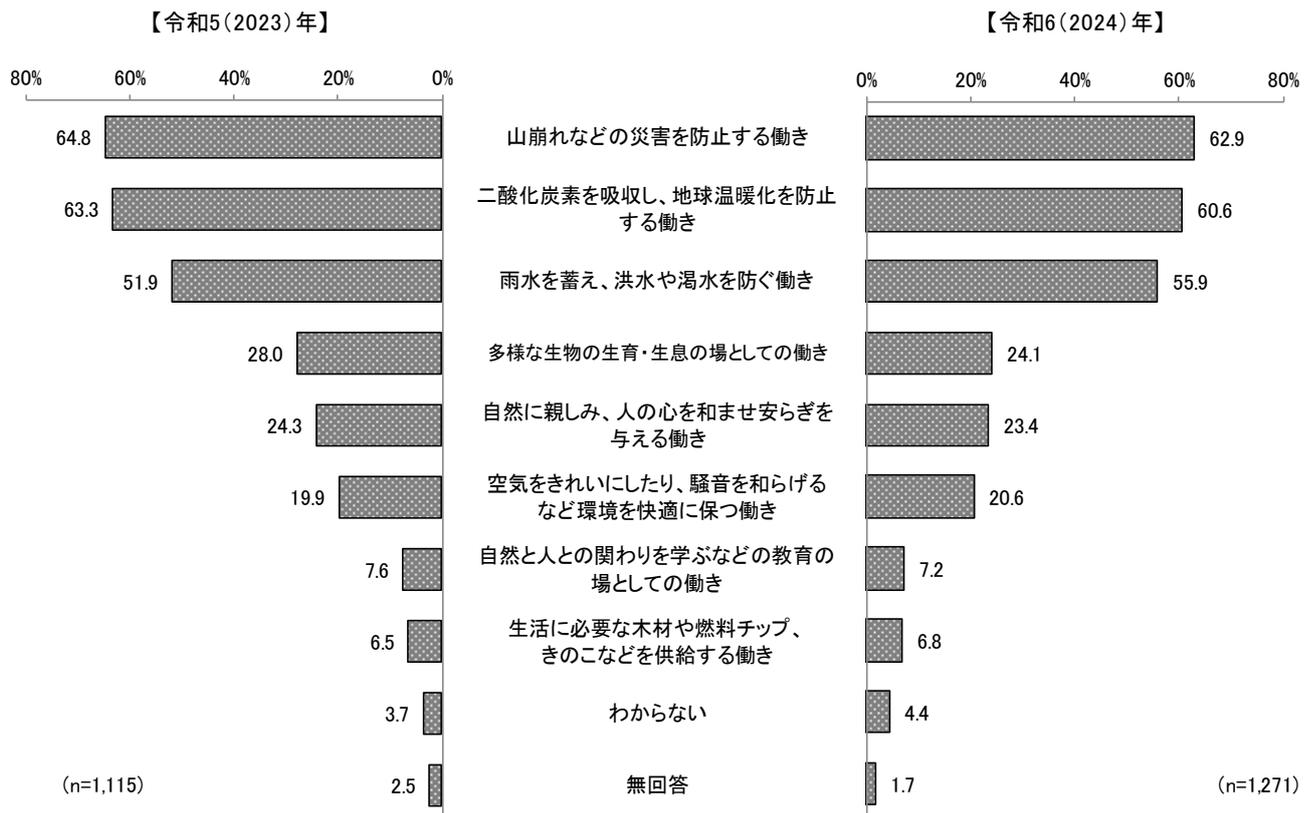


## 16 とちぎの元気な森づくり県民税について

### (1) 重要だと思う森林の持つ働き

問37 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,271]

1	山崩れなどの災害を防止する働き	62.9%
2	雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き	55.9
3	二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き	60.6
4	空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き	20.6
5	生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き	6.8
6	多様な生物の生育・生息の場としての働き	24.1
7	自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き	23.4
8	自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き	7.2
9	わからない	4.4
	(無回答)	1.7

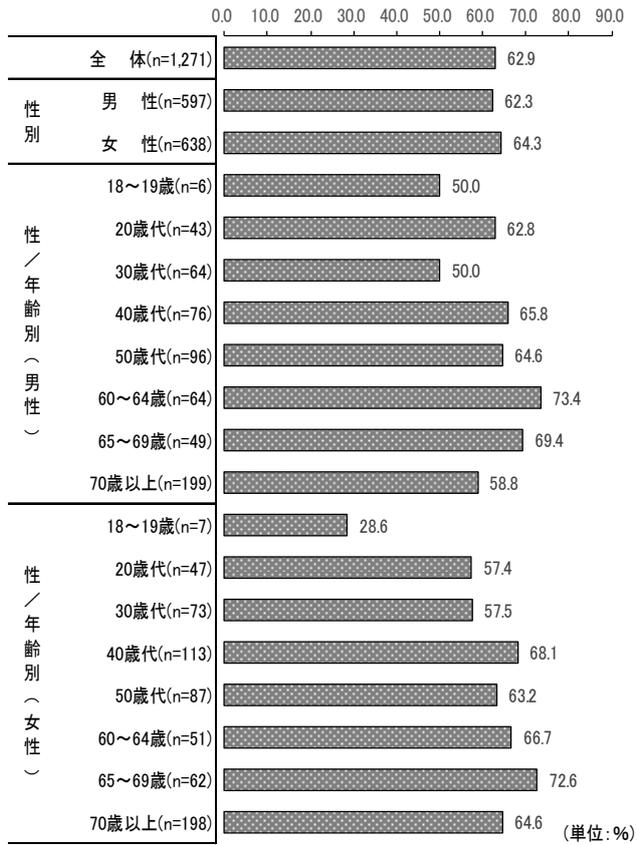


全体でみると、「山崩れなどの災害を防止する働き」(62.9%)が6割台前半で最も高く、次いで「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(60.6%)、「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」(55.9%)の順となっている。

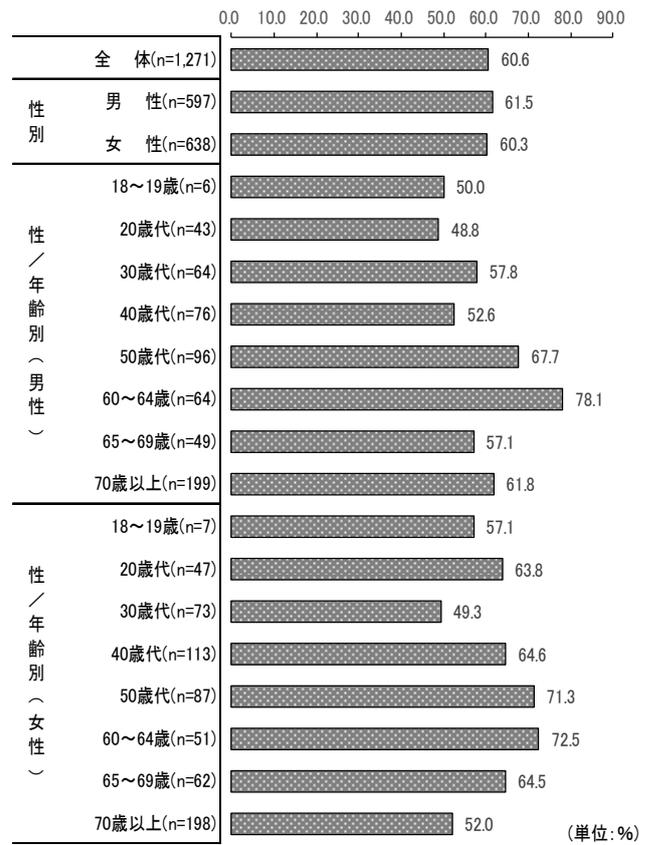
前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」では4.0ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]

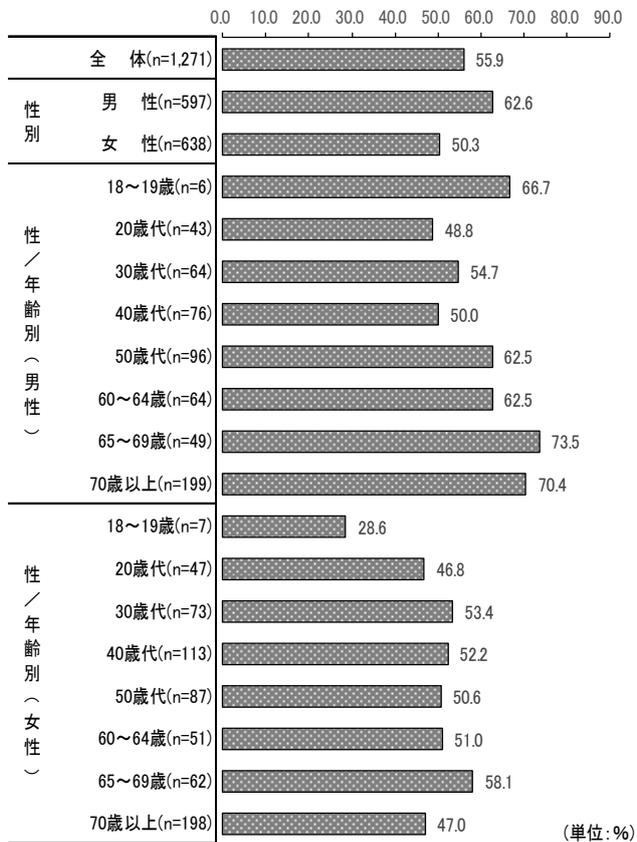
山崩れなどの災害を防止する働き



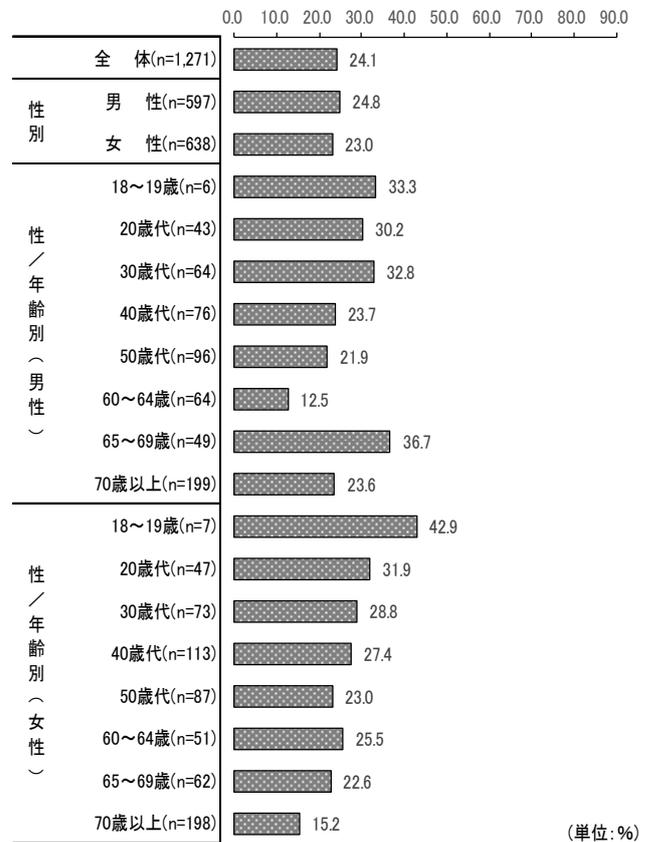
二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き



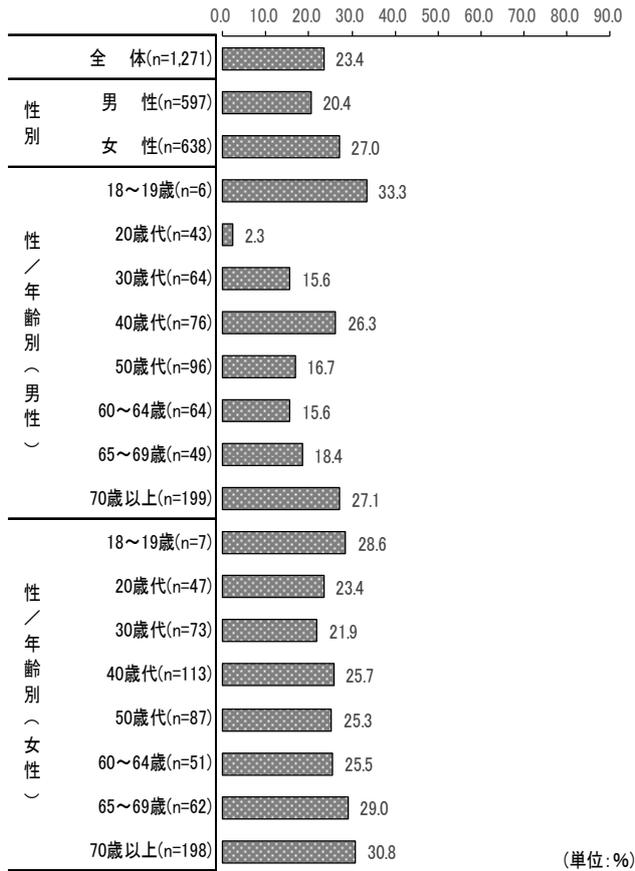
雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き



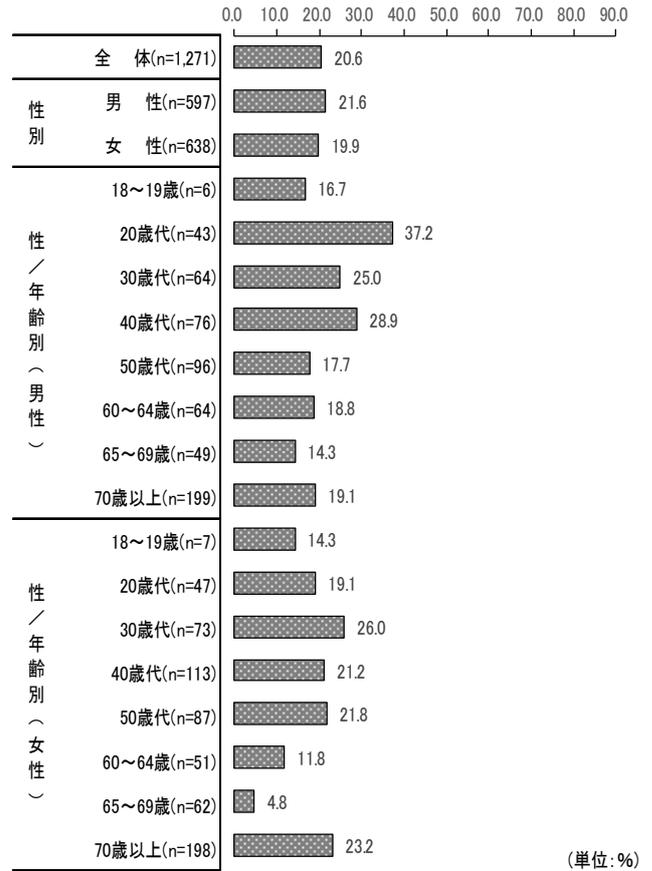
多様な生物の生育・生息の場としての働き



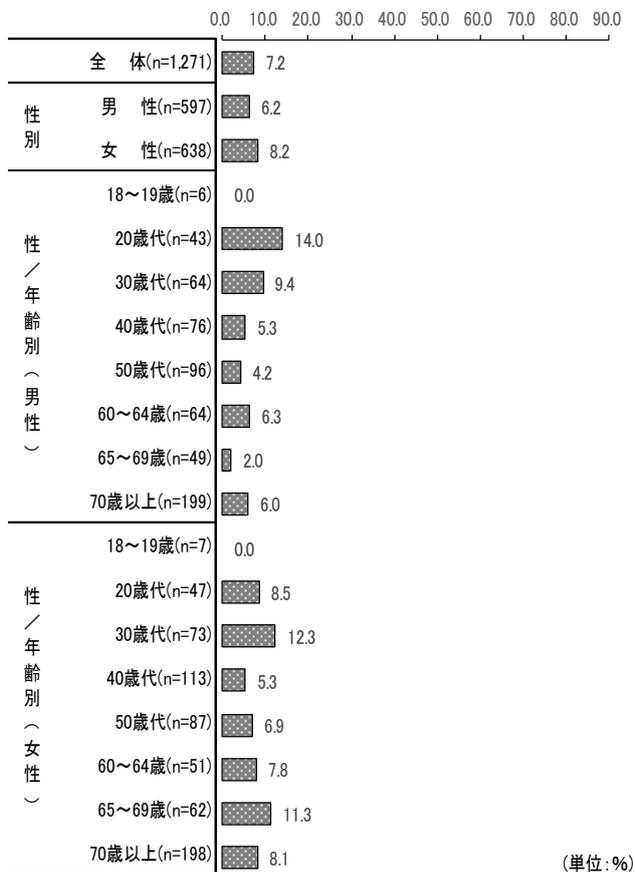
自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き



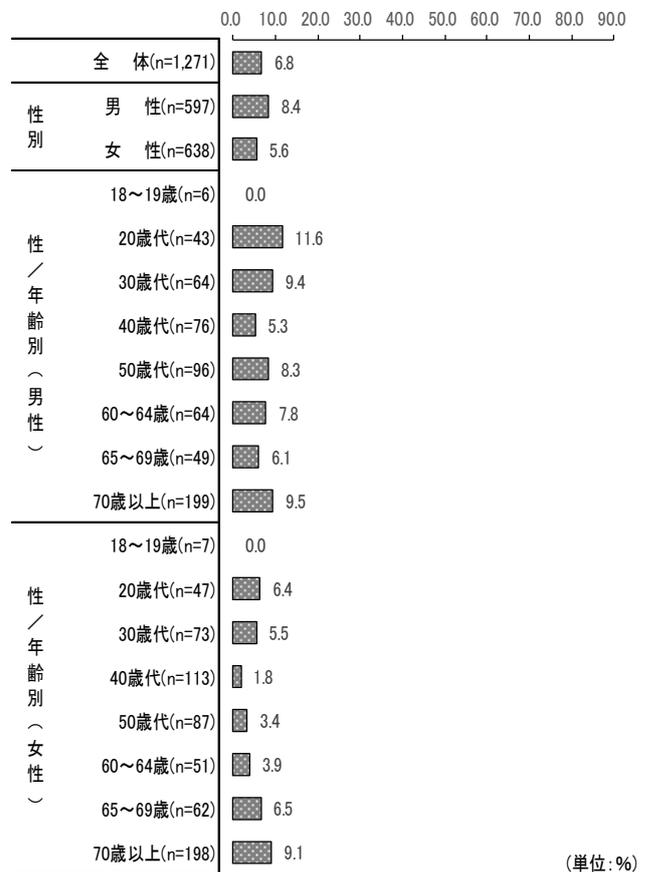
空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き

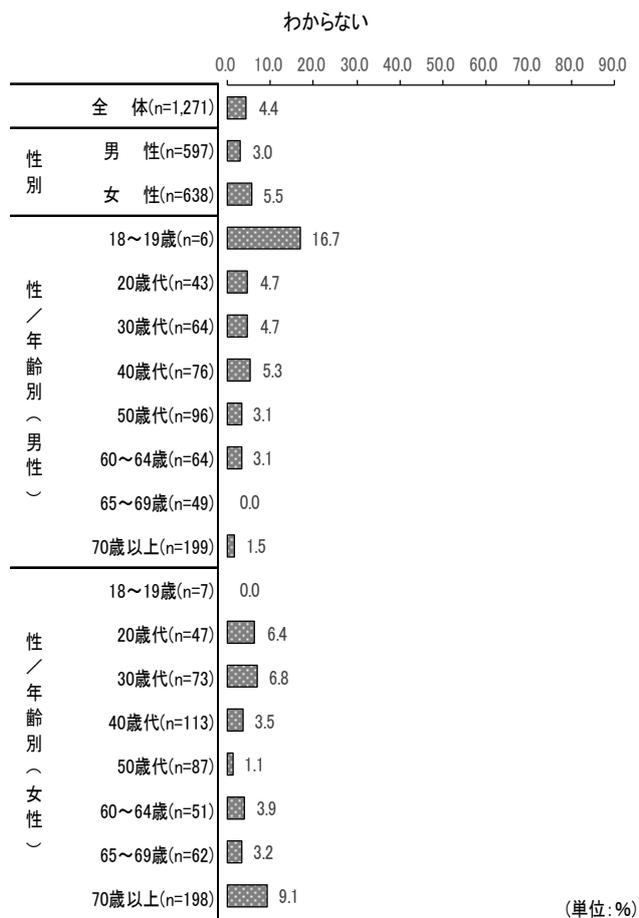


自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き



生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き



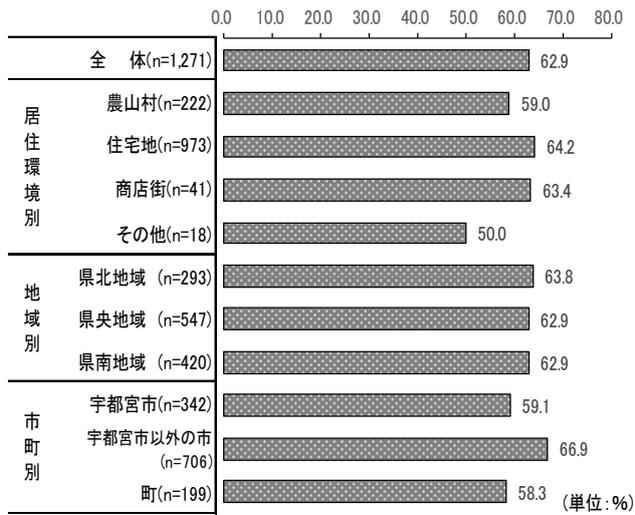


性別で見ると、「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」では〈男性〉62.6%が、〈女性〉50.3%より12.3ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

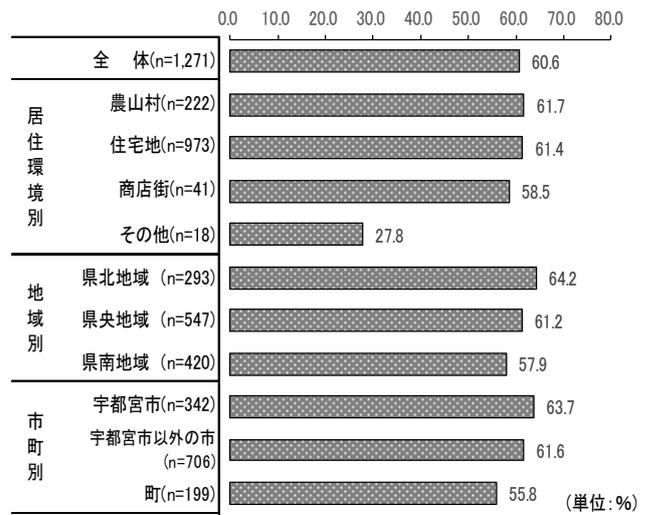
性／年齢別で見ると、「山崩れなどの災害を防止する働き」では〈男性60～64歳〉73.4%が最も高く、〈男性30歳代〉50.0%が低くなっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈男性60～64歳〉78.1%が最も高く、〈男性20歳代〉48.8%が最も低くなっている。「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」では〈男性65～69歳〉73.5%が最も高く、〈女性20歳代〉46.8%が低くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]

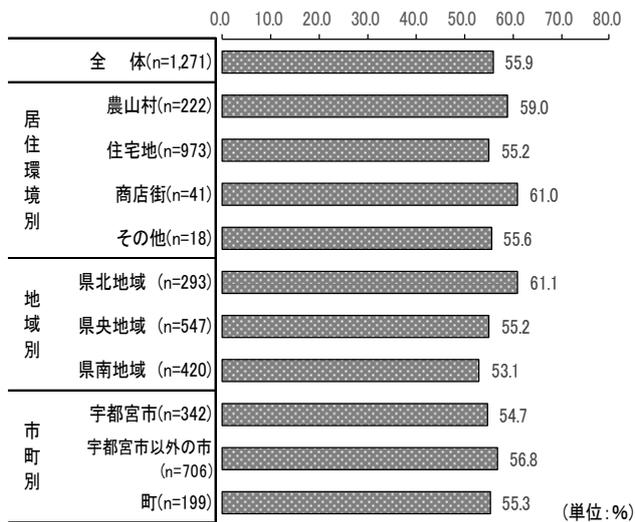
山崩れなどの災害を防止する働き



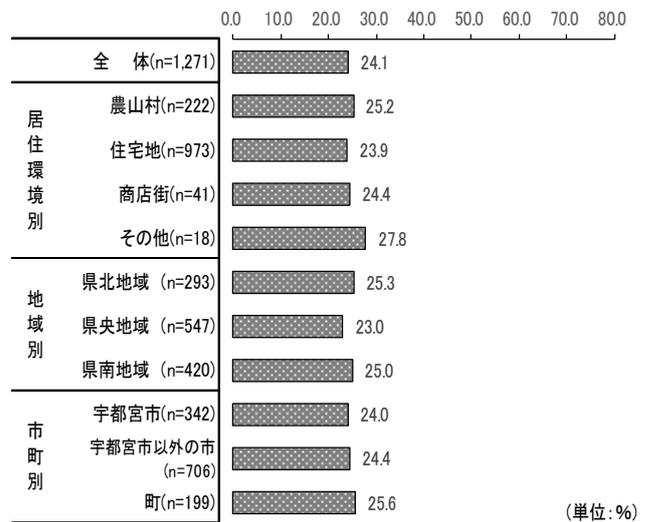
二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き



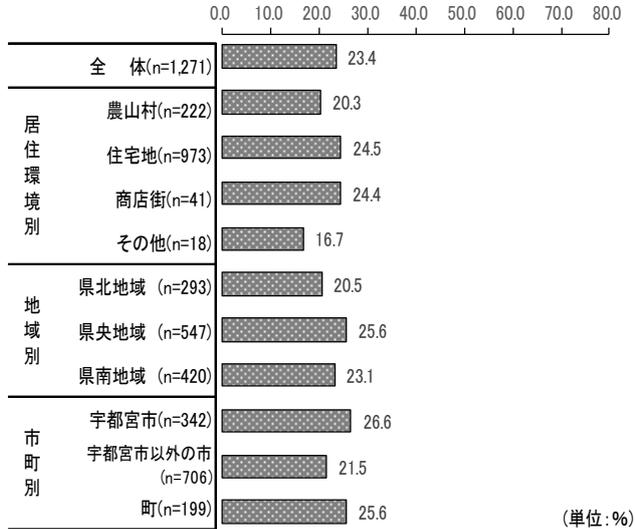
雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き



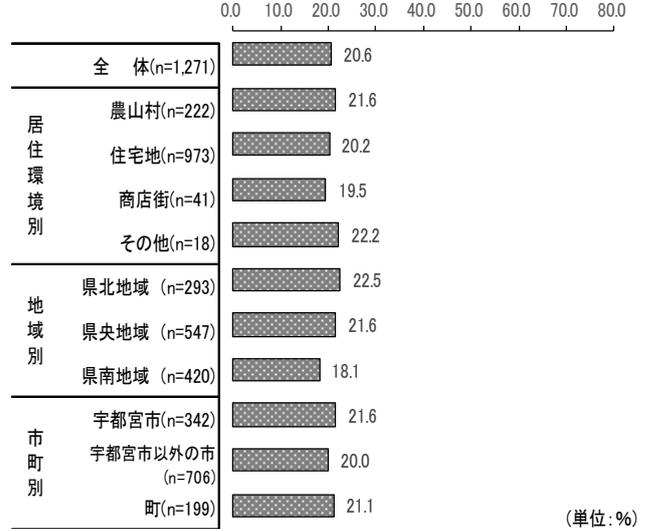
多様な生物の生育・生息の場としての働き



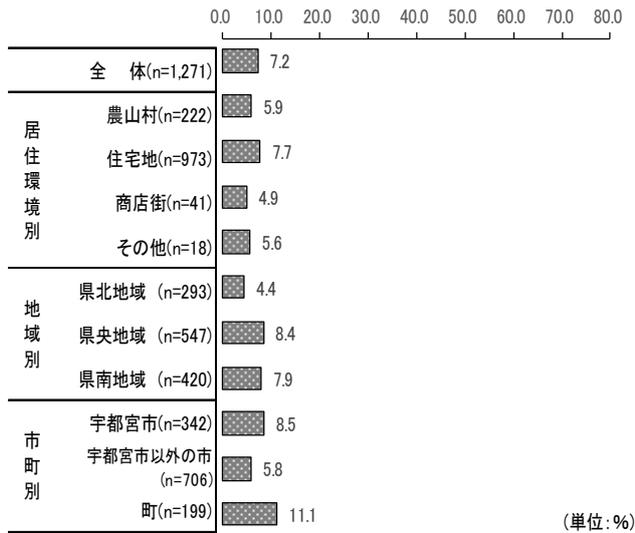
自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き



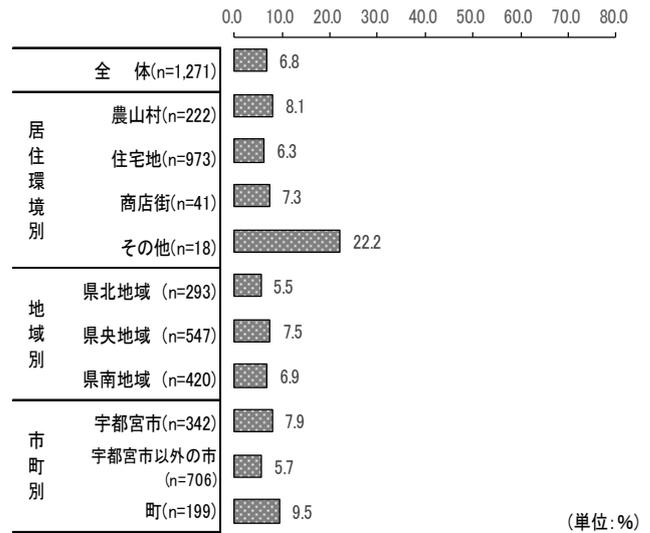
空気をきれいにとしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き



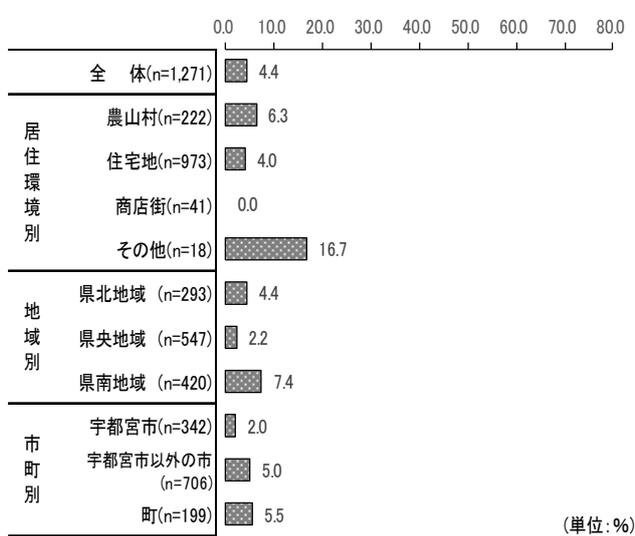
自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き



生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き



わからない



居住環境別で見ると、「山崩れなどの災害を防止する働き」では〈住宅地〉64.2%が最も高く、〈その他〉50.0%が最も低くなっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈農山村〉61.7%が最も高く、〈その他〉27.8%が最も低くなっている。「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」では〈商店街〉61.0%が最も高く、〈住宅地〉55.2%が最も低くなっている。

地域別で見ると、「山崩れなどの災害を防止する働き」ではすべての分類で6割台となっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈県北地域〉64.2%が最も高く、〈県南地域〉57.9%が最も低くなっている。「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」では〈県北地域〉61.1%が最も高く、〈県南地域〉53.1%が最も低くなっている。

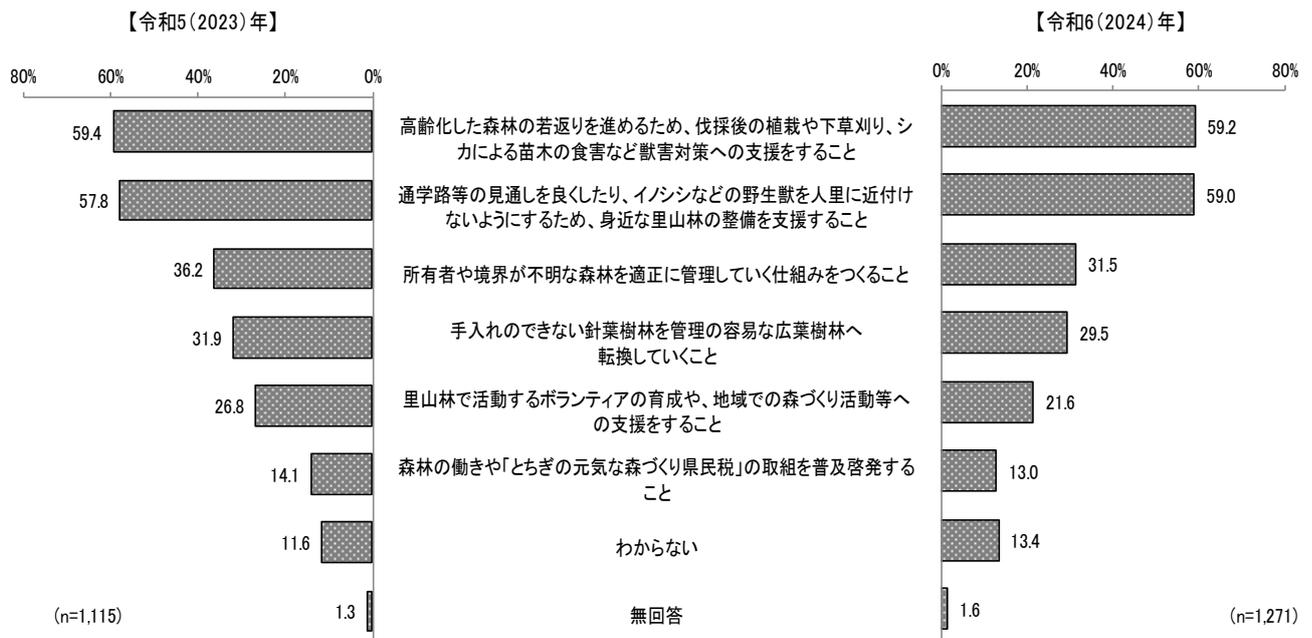
市町別で見ると、「山崩れなどの災害を防止する働き」では〈宇都宮市以外の市〉66.9%が最も高く、〈町〉58.3%が最も低くなっている。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈宇都宮市〉63.7%が最も高く、〈町〉55.8%が最も低くなっている。「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」ではすべての分類で5割台となっている。

## (2) 県民税事業の取組の重要性

問38 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,271]

- |   |  |       |
|---|--|-------|
| 1 | 高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること    | 59.2% |
| 2 | 手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと                           | 29.5  |
| 3 | 通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること | 59.0  |
| 4 | 里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること                    | 21.6  |
| 5 | 所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること                            | 31.5  |
| 6 | 森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること                         | 13.0  |
| 7 | わからない  | 13.4  |
|   | (無回答)  | 1.6   |

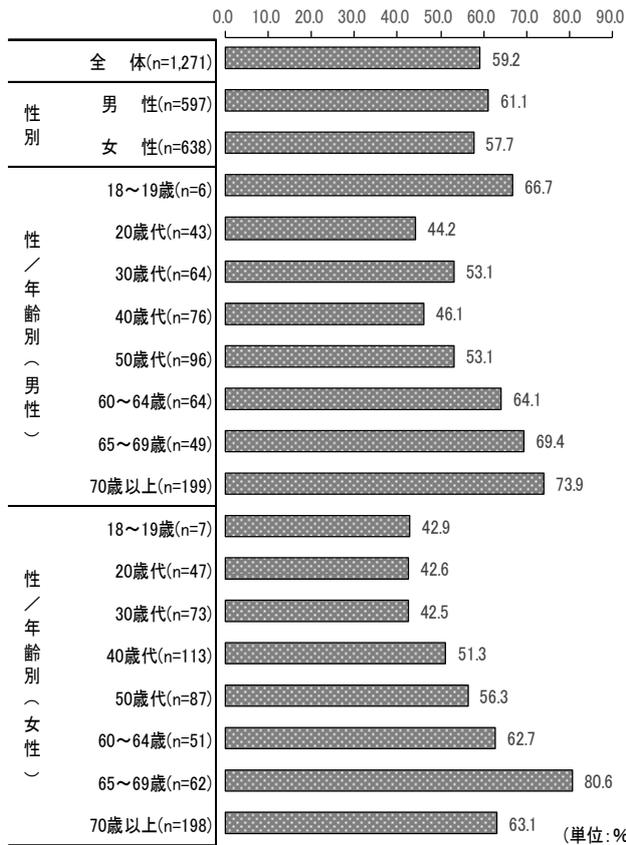


全体でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」(59.2%)が約6割で最も高く、次いで「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」(59.0%)、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」(31.5%)、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」(29.5%)の順となっている。

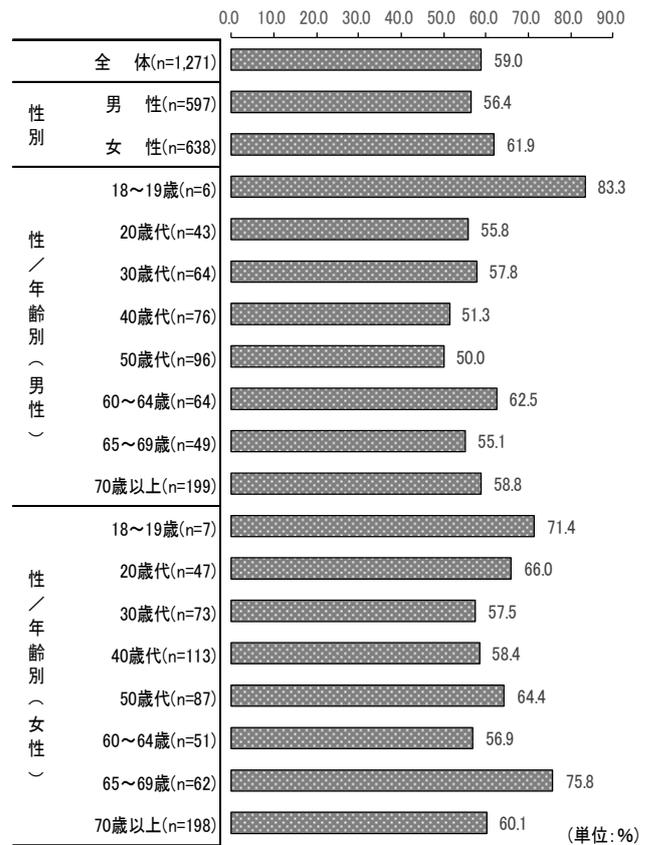
前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では4.7ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

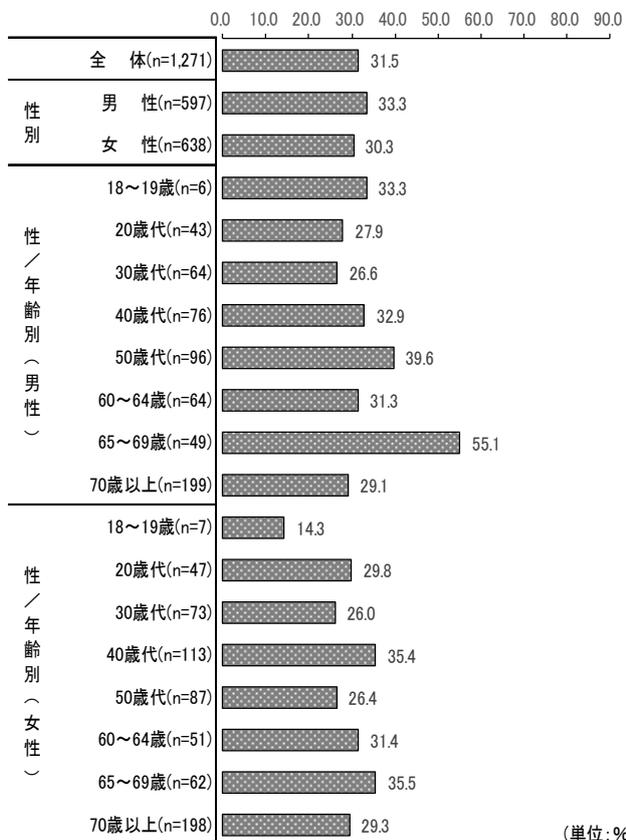
高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること



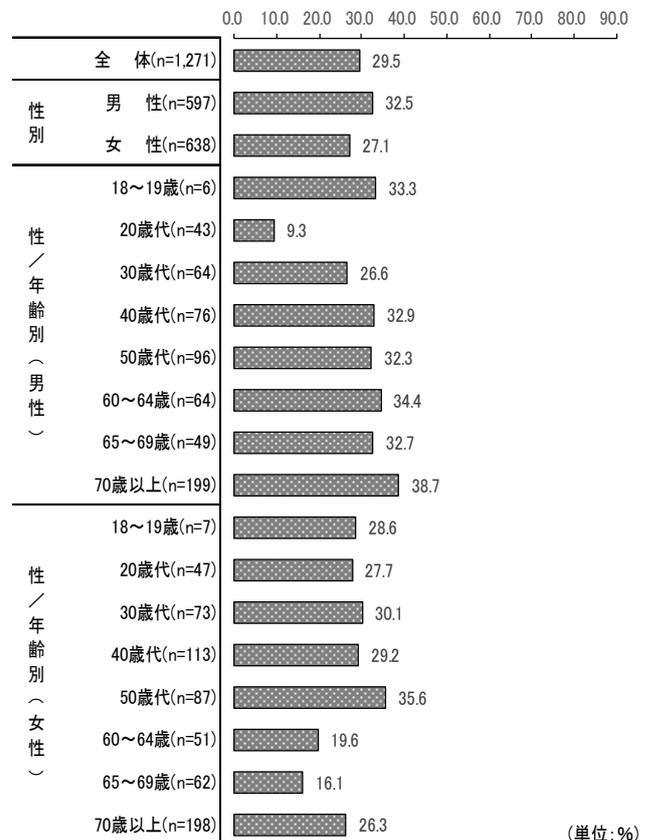
通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること



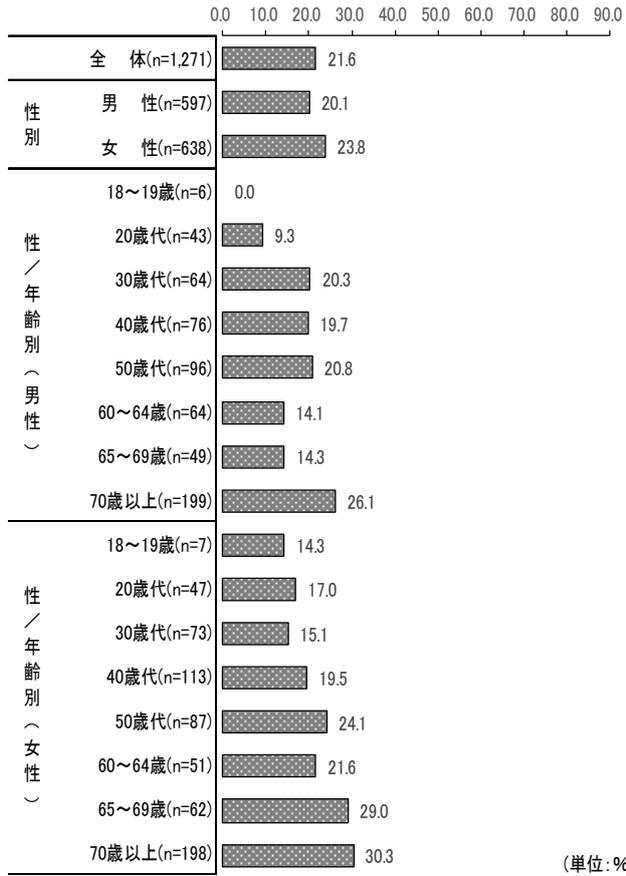
所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること



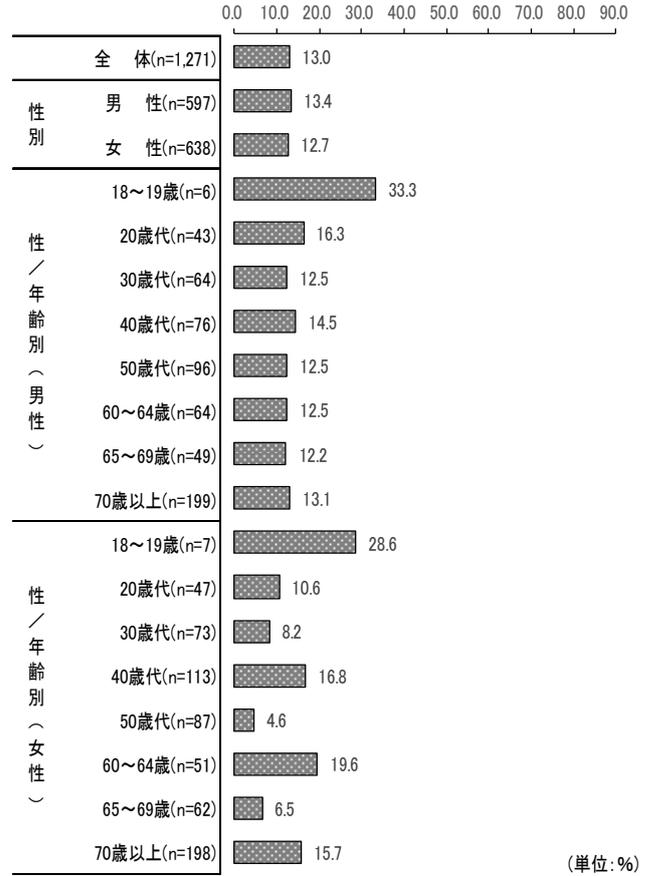
手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと



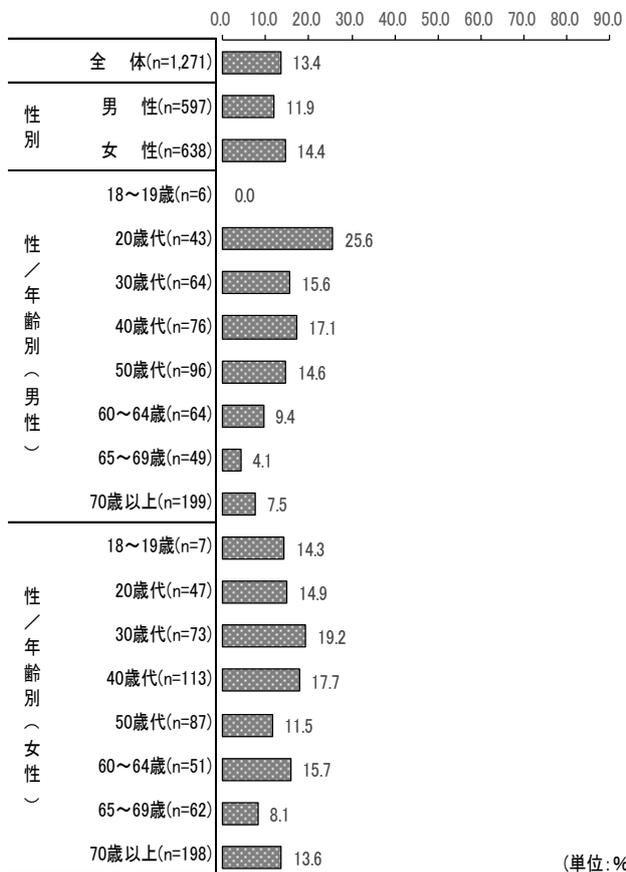
里山林で活動するボランティアの育成や、  
地域での森づくり活動等への支援をすること



森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること



わからない

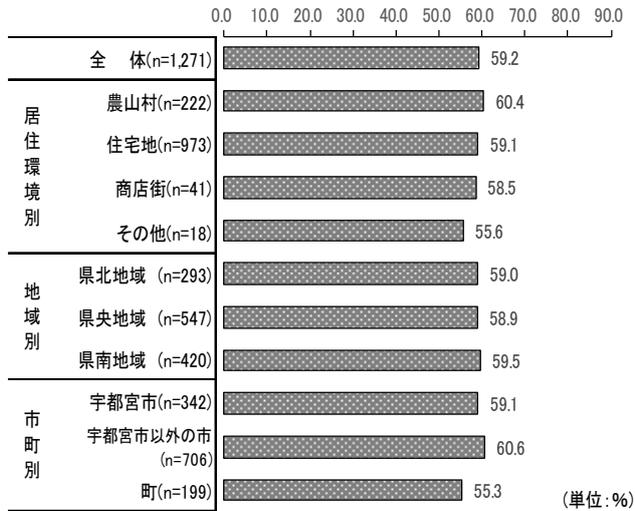


性別でみると、「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性〉61.9%が、〈男性〉56.4%より5.5ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

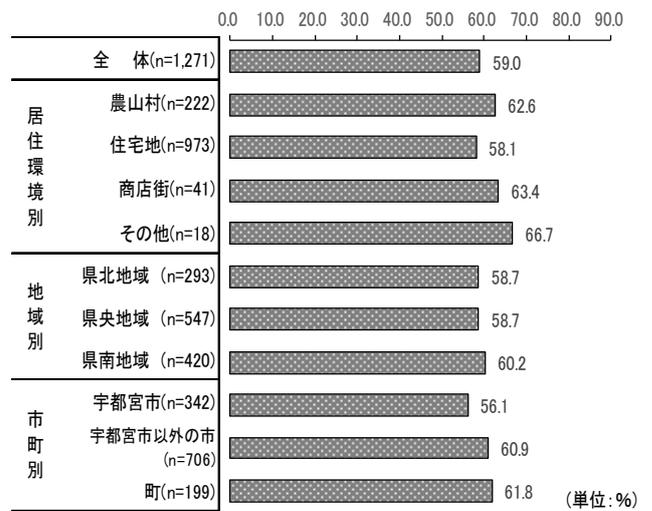
性／年齢別でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」では〈女性65～69歳〉80.6%が最も高く、〈女性20歳代〉と〈女性30歳代〉がともに約42%と低くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性65～69歳〉75.8%が高く、〈男性50歳代〉50.0%が最も低くなっている。「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈男性65～69歳〉55.1%が最も高く、〈女性30歳代〉26.0%が低くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]

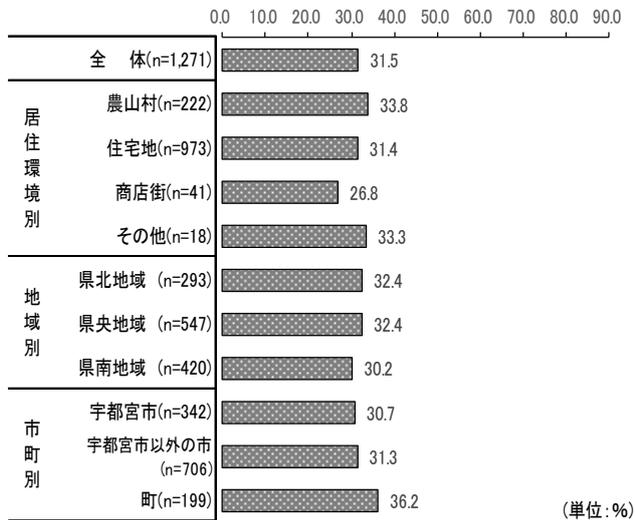
高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること



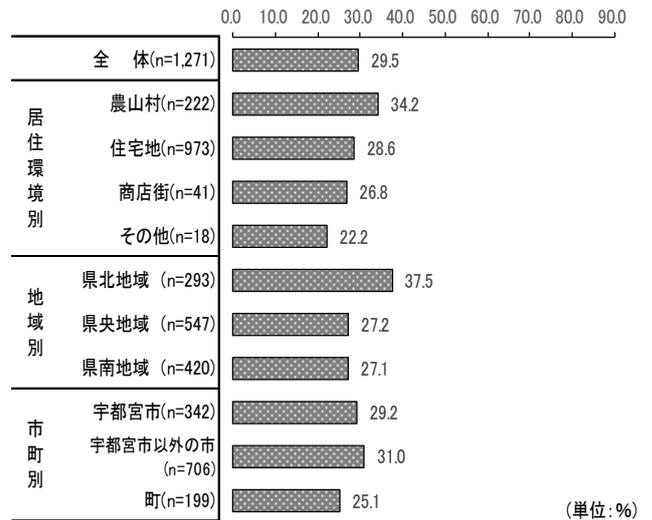
通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること



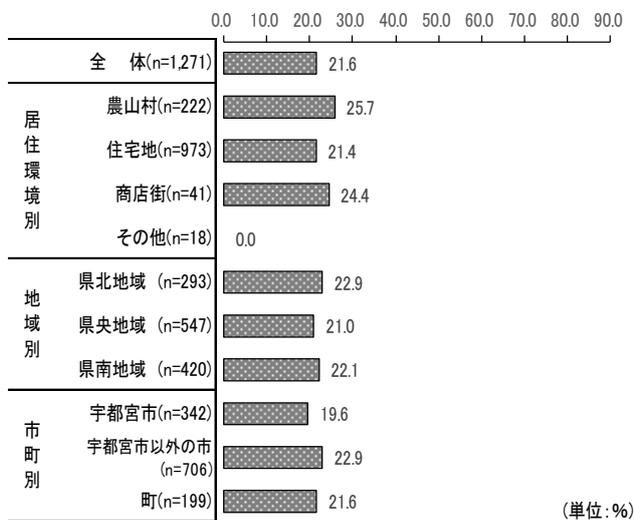
所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること



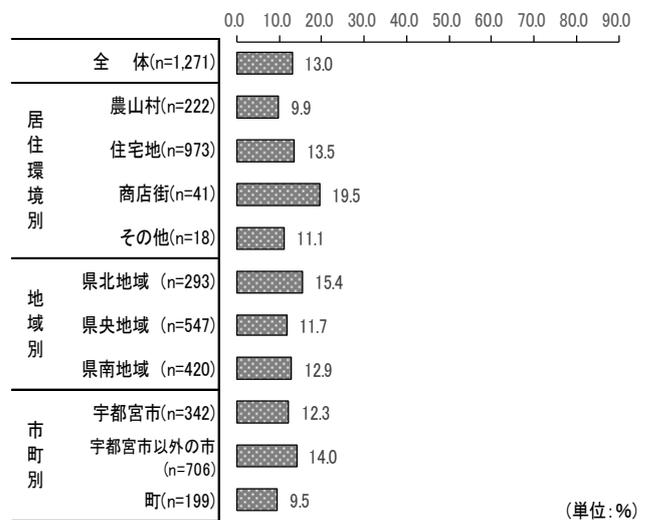
手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと

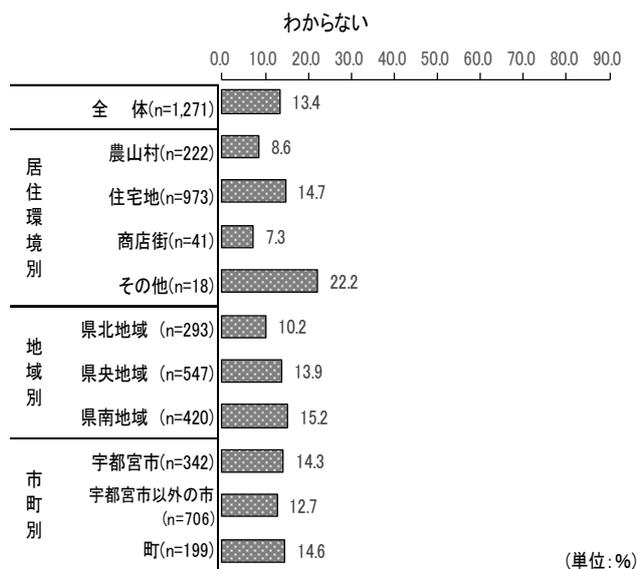


里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること



森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること





居住環境別でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」では〈農山村〉60.4%が最も高く、〈その他〉55.6%が最も低くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈その他〉66.7%が最も高く、〈住宅地〉58.1%が最も低くなっている。

地域別でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」では、すべての分類で約6割となっている。「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈県南地域〉60.2%が最も高く、〈県北地域〉と〈県央地域〉がともに58.7%となっている。

市町別でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」では〈宇都宮市以外の市〉60.6%が最も高く、〈町〉55.3%が最も低くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈町〉61.8%が最も高く、〈宇都宮市〉56.1%が最も低くなっている。